

「はるかぜ」の思いと「令和」の願い

倉敷市立西中学校長 松本 一郎

みなさん、進級おめでとうございます。

桜の花も満開を向かえ、今、最高の輝きを放っています。桜の花だけではありません。私の前に座っている2年生282名、3年生314名のみなさんも最高に輝いているように、私には見えます。

この輝きは、新しい学年のスタートに向けての、みなさんの決意の表れであると思います。私は、教師になって以来、大切にしている言葉があります。

「春風吹いて 美しい花咲く みんな世の中の春風になれ」です。

春風が吹いて、様々な美しい花が咲き出すように、世の中の人々のよさを引き出す人になってほしいという言葉です。

みなさんは、自分にはどんなよさがあると思っていますか。自分が気付いているよさも、気付いていないよさもあると思います。どうか、友だちの、先輩・後輩の、先生の、家族のよさを見つける努力をしてみてください。そうすると、あなたの周りの人たちが、あなたのよさを、気付いていないよさを教えてくれると思います。それが、大切な財産となって、あなたの人生を切り開くエネルギーとなるのです。

3年生は、本年度で義務教育という大きな節目を終え、それぞれの道を歩む準備をしていく年です。

2年生は、自分の可能性を大きく伸ばし、3年生から西中のバトンを受け継ぐ準備をする責任ある1年間になります。

さて、先日、新しい元号が「令和」になると発表されました。「一人ひとりの日本人が明日への希望とともに、それぞれの花を大きく咲かせることができる、そうした日本でありたい」との願いを込めたと、安倍総理大臣のお話もありました。

私が大切にしてきた「はるかぜ」の思いが、「令和」の願いと同じであったことに驚くと同時に、新しい時代の幕開けに立つ皆さんに、大いに期待したと思っています。

今日からの1年、みんなで力を合わせて「倉敷No. 1の西中」を目指してがんばりましょう。